



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第27・28回合併号
平成26年2月7日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 平井 滋
幹 事 平野 佳則
会 報 金子 真也
クラブ直通電話 TEL(653)5682

Engage Rotary, Change Lives. "ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を"…… Ron D. Burton



会員卓話

『あまちゃん』制作裏話

NHK 盛岡放送局 局長
道脇 清文 君

震災の年（2011年）の春頃、2年後（2013年）の4月から始まる朝の連続ドラマの提案がありました。

最初に提案があったのは、あまちゃんの北三陸ではなく青森県の津軽地方を題材にしたドラマでした。

ドラマ番組部には数十人のプロデューサーがいるのですが、そのうちの1人が津軽を舞台にした番組をやりたいと声をあげたそうです。

普通であればこれで決まるのですが、震災直後の時期だったため、普段はあまり現場には口を出さない上層部の1人が「今からとりかかるドラマは、2年後に放送される。阪神淡路大震災の経験から言っても、その時の被災地はまだ立ち直っていないだろう。元気とか笑いとか心の支えになるようなものを被災地を舞台にやるべきだ」と言ったため、津軽の朝ドラは見送られることになりました。

そこでこの幹部が指名したのが、この人とは別の訓覇プロデューサーでした。

訓覇プロデューサーは、「ハゲタカ」「外事警

察」、また大河ドラマでは「徳川慶喜」「功名が辻」、朝ドラでは「オードリー」「まんてん」などを作った人です。

訓覇プロデューサーは、まず沿岸を中心に東北各地を取材して回りました。震災直後のことで、周りにドラマの下調べとか言ってる場合じゃありませんでしたから、結果的に隠密行動のようになりサーチでした。被災地支援というテーマがありましたから、東北の内陸じゃなくて沿岸を舞台にしたい。しかし明るい感じのドラマにするためには、被害の大きい所は向かないということでもかなり悩んだそうです。

ドラマで笑いを届けたいと考えていた訓覇プロデューサーは、脚本をコメディが得意な作家にやってもらおうと思って、宮藤官九郎さんに話をもちかけました。宮藤さんは宮城県出身だし、宮藤さんの周辺の人たちが被災していたことを知っていたからという事情もありました。しかしこの時訓覇プロデューサーは宮藤さんに「舞台を被災地で」ということを話さなかったそうです。まずは、宮藤さんに自由に発想して

もらおうということだったようです。

だから、宮藤さんの頭の中には東北ではなく「大鹿歌舞伎で有名な長野県大鹿村」があったといいます。宮藤さんは、訓覇プロデューサーから「どんなのやりたいですか」と聞かれ、「すごくさびれている街の地元の人たちがなんにもいいと思っていない郷土芸能を、ずっと年寄りが継承していたんだけど、それを若い子がやった途端に大人気になる。ネットとかで話題になってみんな見に来るようになるというような話」と答えています。

宮藤さんと訓覇プロデューサーは「村のおかあさんが、かつて芸能界に憧れて東京に行ったことがあるという設定もいいかも」などと話していました。これが後のあまちゃんの骨格になった訳です。

ところが、上から「被災地でいけ」と言われていた訓覇プロデューサーは「このままでは長野県が舞台になってしまう」ため、何とか宮藤さんの意識を東北に向けさせようとししました。この時すでに訓覇プロデューサーたちが東北周りをしていたことを宮藤さんは知っていましたが、「たぶん自分が東北出身で方言とか文化とかを調べなくても脚本がかけるから、自分に気を遣ってドラマの舞台を東北にしようとしているのかなと思っていた」と後に話しています。時期としては夏頃のことでした。

放送開始から逆算して、そろそろロケ地を確定したかった訓覇プロデューサーは、「宮藤さんの地元の栗駒にも行ったが、とくにおもしろいモノはなかった。それより、岩手県の久慈って所に海女さんがいる。」「そこにはローカル線も走っていて、なかなかいいと思う」と言って、

初めて久慈の名前を出して、宮藤さんを連れ出し、2011年の秋に初めて現地に入りました。

訓覇プロデューサーにはもうひとつ、クリアしなければならない問題がありました。NHK内には①クドカンの脚本がこれまでの連ドラのイメージと違いすぎるのでは、とか②朝の連ドラである以上、「美しすぎる海女さん」騒ぎを思い起こさせてワイドショーとか週刊誌が騒ぐのでは、などと難色を示す意見もあったのです。しかし、結局、訓覇プロデューサーは上を説得し、「久慈の海女さん」が主演ということで事を進めていきました。

久慈を訪れた訓覇プロデューサーと宮藤さんが最初にやったのは、海女さんへの取材でした。小袖海岸の海女さんたちから話を聞いたのですが、東北人の宮藤さんも半分ぐらいしか理解できなかったそうです。海女さんたちが時々「じえじえ」というので、意味を聞いたら「こっちは驚いたときに『じえ』って言う」と言ったので「もっと驚いたときは？」と聞いたら「じえじえって言う」という答えだったので「これはおもしろい」と思ったそうです。これはドラマのシーンにそのまま出てきます。まめぶもこの時初めて知り、おもしろいと思って持ち帰りました。

実は「ストーブさん」にもモデルがいました。これも久慈での取材で発見。小袖に高校生の海女さんもいたので、その子の取材をしに家を訪ねました。その子にお兄ちゃんがいて、本当にストーブのそばから離れなかったそうです。親が「こいつは東京のどこそこに就職したんだけど3週間で帰ってきた」と言ったら苦笑していたのだそうです。ストーブの前で。すごく二

枚目で、久慈ではもてていたようです。これがドラマのひろし君のキャラクターを生み出したのです。

何度か取材を進め、2011年11月の帰りの東北新幹線の中で、突然、宮藤さんは訓覇プロデューサーにドラマの構想を語りました。その中で「80年代」「歌謡曲」「海女さん」「赤字ローカル線」「町おこし」「再生」をキーワードにすることが決まり、宮藤さんの台本作りが始まりました。

台本づくりと並行してキャスティングが行われました。

大半は訓覇プロデューサーが選びましたが、宮藤さんは3人を希望したといいます。1人は小泉今日子さん。どうしてかというと、80年代にこだわったからと後に話しています。小泉さんは、キーワードのうち「80年代」「歌謡曲」のふたつの要素をもった素材で、宮藤さんは「小泉さんが出演できなかったら、『あまちゃん』じゃなく、ちがう話になっていた」と後に話しているほど、小泉さんがヒロインの母親ということにこだわっていました。80年代風の「潮騒のメモリー」を歌わせる都合もあったようです。さらに薬師丸ひろ子さんと古田新太さん。宮藤さんの頭の中では、かなり早くから東京編の構想もありました。

このドラマはパロディーが盛りだくさんです。大改造劇的ビフォーアフター・ベストテン（久米宏さんと黒柳徹子さん）・荒木太一（秋元

康さん）・このほかGMT47（AKB48）などのパロディーが次々と繰り出されました。このほか「岩手こっちゃこいテレビ」は「いわてめんこいテレビ」。番組「5時だべ！わんこチャンネル」はテレビ岩手の「5きげんてれび」のパロディーでした。

最後に震災について。震災を描くかどうか、大分悩んだようです。宮藤さんは地震の3ヶ月後に東京の劇場で芝居をやっていました。宮崎あおいさんが主演女優です。これを地元から同級生たちが見に来たそうで、その人たちに宮藤さんが「震災、大丈夫だった？」などと聞いていると、その友達がいきなり宮崎あおいさんに向かって「被災地からきたんですが、サインいいですか？」と聞いたそうです。またこんなこともありました。被災地で、おばちゃんに「Tシャツの後ろにサインして」と言われたので、サインしようとしたら、「午後からEXILEが来るからその分空けといて」と言われたと言っています。宮藤さんは、こういう体験をしたことで、「それでもやっぱり笑いたい、笑って元気になりたいんだよ、っていうことは、言わなきゃいけないんじゃないかなと思った」のだそうです。ドラマでは、登場人物が被害にあうという設定はせず、また3月11日のこともかなり間接的に描くだけで、その後、人々が立ち上がっていく様子に力点をおいているのは、こうした考え方からでした。

**国際ロータリー第 2520 地区
第一分区盛岡ゾーン奉仕研修セミナー
第 27 回例会 例会変更**

平成 26 年 1 月 25 日(土) 盛岡グランドホテル



先日開催されました「社会奉仕セミナー」国際ロータリー第 2520 地区第一分区盛岡ゾーン 8RC の合同セミナー・例会に参加致しました。

メインの御講演は、奉仕研修セミナー「随所に主となる」と題して、国際ロータリー第 2800 地区バスタガバナーの藤川享胤先生が務められました。

昨今のテレビなどに登場される著名人の品格にふれながら、社会奉仕の本質や人の心の琴線にふれるお話を、ロータリークラブの組織や会社の組織や社会の構図に例えながら“使命感の強さ”の必要性を説かれました。そこには仏教において克服すべき“三毒(貪・瞋・癡(とん・じん・ち))”や随所

に主となるには「正義、決断・勇気、友愛、融和」が重要であって、特に、意見の対立する中で結論を導くことは出来ないのだからと、会場の参加者の意見を取り入れながら、リーダーとリーダーシップの違いを説くお話は、経営者の私たちにとって心を新たにとても勉強になったと思います。

藤川享胤先生が一番熱く語られた、ロータリークラブの組織や会社の組織や社会の構図の中で忘れられようとしている大切な原点は『日本人の心である恥を知れの文化』というのは誰もが心に響いた御言葉だったと思います。近江商人の教えのように売り手よし・買い手よし・世間よしの三方よしに代表される日本人の心を重んじれば、権力にしっぽを振って近づいていく組織には未来は無いと組織の理念を伝えて頂きました。

入会浅い私にとっては、ロータリーの関連月刊冊子を熟読する以上に本質を解りやすく説いて頂いたと感じております。貴重なお話を頂き、私も自身の環境を通じて奉仕に努めて参りたいと思います。

誠に簡単ではありますが、合同例会奉仕研修セミナー報告と致します。

会報委員長：金子真也

例 会 報 告

第 28 回例会
平成 26 年 1 月 31 日(金)

於 川徳 12時30分 開会点鐘
・司 会 平井 滋会長
・ソング 手に手つないで

- ・会長報告 平井 滋会長
- ・入会祝 佐藤重昭君。
- ・幹事報告 平野佳則幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡北 R.C.= 2月26日(水)は、18:30に時間変更。
- 盛岡西 R.C.= 2月6日(木)は、新

年会・年祝い会のため18:30~「駒龍」。

- 盛岡東 R.C.= 2月17日(月)は、通常夜例会 18:30~「すべいん倶楽部」会場変更。

- メークアップ
盛岡北 R.C.= 金子・菊池君。盛岡西北 R.C.= 佐藤(重)君。

出席報告 会員数 /69 名 出席数 /41 名 出席率 /63.08% 前々回修正出席率 /77.61%

プログラムの
お知らせ

- ・2月 7日(金) 新入会員卓話 西田直貴会員『日米株式市場の見通し』
- 14日(金) 第3回クラブアッセンブリー
- 22日(土) 創立75周年記念例会(21日例会変更・会場変更)
- 28日(金) ゲスト卓話 南 道行様
(陸上自衛隊岩手駐屯地指令 一等陸佐)

- 本号編集担当 / 中山 哲克
- 次号編集担当 / 加藤 正幸